

おはしまして御らむの、ち、御かはらけいく返となくきこしめせば、人々もゑひみだれ、さまざ
まにてすぎぬ、

〔宣順卿記〕慶安五年五月一日、本院○後新院正、女院○今日初度、東御幸于九條前關白亭○幸

事變御幸

〔皇年代略記崇徳〕保元元年七月十一日、依有欲危社稷之聞、官軍襲擊白河仙洞、即敗落竊幸仁和寺、
同十二日、出家、同廿三日、移坐讚岐國、

〔保元物語三〕新院御遷幸事

去程ニ今日、七月廿二日、藏人左少辨資長奉綸言、仁和寺へ參り、明日廿三日、新院○崇ヲ讚岐國へ
可奉遷由ヲ奏聞ス、院モ都ヲ出サセ給ベキ由ヲ内々聞召ケレ共、今日明日トハ不思召處ニ、正
シク勅使參テ事定リシカバ、御心細ク思召ケル餘リニ、角ゾ口ズサミ給ケル、

都ニハ今宵計ゾ住ノ江ノキシミチオリスイカデツミ見ン、○中略明レバ廿三日、未ダ夜深ニ仁

和寺ヲ出サセ給フ、美濃前司保成朝臣ノ車ヲメサル、佐渡式部大輔重成ガ郎等共御車差寄テ、先
女房達三人ヲ御車ニ乗セ奉ル、其後仙院被召ケレバ、女房達聲ヲ調ヘテ泣悲ミ給、誠ニ日比ノ御
幸ニハ、ヒサシノ車ヲ廳官ナドノ寄シカバ、公卿殿上人庭上ニ下立、御隨身左右ニ列リ、官人番長
前後ニ順ヒシニ、是ハ怪ダナル男、或甲冑ヲ鎧タル兵ナレバ、目モクレ心モ迷テ泣悲ムモ理也、夜
モホノ、ト明行ケバ、鳥羽殿ヲ過サセ給トテ、重成ヲ被召テ、田中殿へ參テ、故院ノ御墓所ヲ拜
ミ、今ヲ限りノ暇ヲモ申サント思フハイカニト被仰下ケレバ、重成長テ、安キ御事ニテ候へ共、宣
旨ノ刻限移候ナバ、後勘如何ト畏申ケレバ、誠ニ汝ガ痛申モ理也、サラバ安樂壽院ノ方へ御車ヲ
向ケテ、懸ハツスベシト仰ケレバ、即牛ヲハツシ西ノ方へ押向ケ奉レバ、只御涙ニムセバセ給フ
ヨソホヒノミゾ聞エケル、是ヲ承ル警固ノ武士共モ、皆鎧ノ袖ヲゾヌラシケル、暫有テ鳥羽ノ南
ノ門へ遣出ス、國司季賴朝臣、御舟并武士兩三人ヲマウケテ、草津ニテ御舟ニ乗セ奉ル、重成モ讚